

HDS027-07

会場:301A

時間:5月25日 10:00-10:15

## 2010年,北海道で発生したランドスライド Landslides in Hokkaido, 2010

田近 淳<sup>1\*</sup>, 石丸 聡<sup>1</sup>, 川上 源太郎<sup>1</sup>, 岡崎 紀俊<sup>1</sup>, 田村 慎<sup>1</sup>

Jun Tajika<sup>1\*</sup>, Satoshi Ishimaru<sup>1</sup>, Gentaro Kawakami<sup>1</sup>, Noritoshi Okazaki<sup>1</sup>, Makoto Tamura<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 北海道立総合研究機構地質研究所

<sup>1</sup> Geological Survey of Hokkaido

北海道では2010年夏,停滞前線の活発化により,局地的な豪雨が頻発し,河川の増水による災害のほか,斜面崩壊や地すべりなどによる災害が多発した。また,12月には札幌市清田区で内陸地震(M4.6)に伴う斜面崩壊が発生した。この報告では,北海道で2010年に発生した主なランドスライドの地形地質条件について紹介する。

8月13日~14日には,集中豪雨により,天塩町・遠別町の町境付近の丘陵山地で斜面崩壊が多発した。崩壊は鮮新世勇知層(細粒砂岩泥岩互層),次いで中新世遠別層(珪藻質泥岩)の分布域に多く,そのほとんどは斜面堆積物等の表層崩壊-土石流であった。遠別層分布域では風化岩盤でやや深い崩壊(岩盤崩壊-土石流)も発生した(石丸ほか,2011)。8月22日には芦別市野花南で,白亜紀のエゾ層群の泥岩凝灰岩の斜面で地すべりが発生している。

8月から12月にかけて,胆振の壮瞥町上久保内で幅250m,奥行き350mの小規模な地すべりが滑動した。この地すべりは,新第三系泥岩凝灰岩の上に洞爺火砕流堆積物などを載せる地すべりで,12月3日の豪雨で活発化し,冬季でも1cm/dayの移動量を維持している。

12月2日の内陸地震(M4.6)に伴う斜面崩壊は,震源域の直上に位置するゴルフ場で発生したものである。このゴルフ場は支笏火砕流台地に造成されており,コースの一部は谷を埋めて造成されている。3箇所の崩壊のうち,2か所は支笏火砕流堆積物によって谷を埋めた盛土斜面で発生した。このうちの少なくとも1箇所は,移動体の移動量が大きく,流動した可能性が大きい。

キーワード: 地すべり, 地質素因, 豪雨, 地震

Keywords: landslide, geologic cause, heavy rain fall, earthquake